

さ  
か  
い

---

第6章

---

坂井市の「地域力」と  
今後の展望

SAKAI  
CITY  
10th Aniv.   
SPECIAL SHINE SURPRISE

## 第1節

# 全国都市 住みよさランキング

住みよさランキングとは、東洋経済が公的統計をもとに、全国約800の都市が持つ「都市力」を、安心度、利便度、快適度、富裕度、住居水準充実度の5つの観点に分類し、採用15指標について、それぞれ平均値を50とする偏差値を算出、その平均を総合評価としてランキングしたものです。

坂井市は、2012年ランキングでは全国3位、2013年ランキングでは全国4位、2014年ランキングでは全国2位、2015年ランキングでは全国5位と4年連続全国5位以内と高い評価を得てきております。

この高い評価は、県内屈指の穀倉地帯である坂井平野が広がる農村地帯であり、広い住宅と高い持ち家比率から「住居水準充実度」が24位、福井市の20%通勤圏に該当することから、「安心度」が35位、「利便度」が95位と全国上位に位置していることが要因と考えられます。

### 住みよさランキング採用指標

○安心度	病院・一般診療所病床数（人口当たり） 介護老人福祉施設・介護老人保健施設定員数（65歳以上人口当たり） 出生数（15～49歳女性人口当たり） 保育所定員数－待機児童数（0～4歳人口当たり）
○利便度	小売業年間販売額（人口当たり） 大型小売店店舗面積（人口当たり）
○快適度	汚水処理人口普及率 都市公園面積（人口当たり） 転入・転出人口比率 新設住宅着工戸数（世帯当たり）
○富裕度	財政力指数 地方税収入額（人口当たり） 課税対象所得（納税義務者1人当たり）
○住居水準充実度	住宅延べ床面積（世帯当たり） 持ち家世帯比率

## 第2節

# シティセールスの取り組み

シティセールスとは、都市が持つ様々な魅力を対外的に、より効果的、より戦略的にアピールし、多くの観光客の訪問、特産品の販売促進、また、新たな交流人口や定住者の増加等を目的に、都市の活性化を図る活動であります。

坂井市では、平成26年5月1日に秘書広報課内にシティセールス推進室を設置し、翌年1月1日付で一般公募により民間企業等で培われたPRに関する専門的な知識や経験を備えた、「坂井市」のシティセールスをマネジメントできる人材を室長として迎えました。

今後ますます人口が減少する中で、坂井市がいつまでも元気であり続けるためには、今まで以上に交流・定住人口の確保を図る必要があります。このためには、坂井市の魅力を効果的、戦略的に発信し、市内外の人々に対して、まずは「もっと坂井市を知ってもらおう」という「認知」の向上と坂井市に住む人々の「地域参画総量」の増加が最重要となります。地域参画総量は、単に諸々の活動に参加してもらおうというものだけではなく、それぞれに地域に愛着をもってもらおう、いわゆるシビックプライドと同じです。

これからの地方創生は、産官民金連携なしには成り立ちません。地域に住む人々がその魅力を発信していこうと思わなければ、行政がルールを敷き、予算をつけても情報は広がっていきません。

坂井市では、この「認知」と「地域参画総量」をキーワードにして、坂井市を知ってもらって、坂井市に来てもらう、そして坂井市の魅力を感じて住んでもらう、更には住んで愛着を持ってもらう、このような取り組みをそれぞれの担当部署をはじめ、市民、各種団体、学校、企業などの方々と一緒に行っているところであります。

## 第3節

# 長期人口ビジョンと 地方創生総合戦略

### ■坂井市人口ビジョンの概要

#### [坂井市人口ビジョン策定の目的]

日本は今、「人口減少時代」に突入しています。坂井市も同様に平成17年度の国勢調査をピークに人口減少に転じています。人口減少は「静かなる危機」と呼ばれるように、日々の生活では実感し難い現象ですが、このまま人口減少が続くと私たちのまちや生活に様々な影響が想定されます。

1. 商店街をはじめ、金融、医療機関などサービス産業が縮小
2. 地域公共交通が衰退
3. 限界集落の発生、空き地や空き家が増加
4. 税収減少により公共サービス水準が低下
5. 自治会をはじめとする地域コミュニティの機能が低下 など

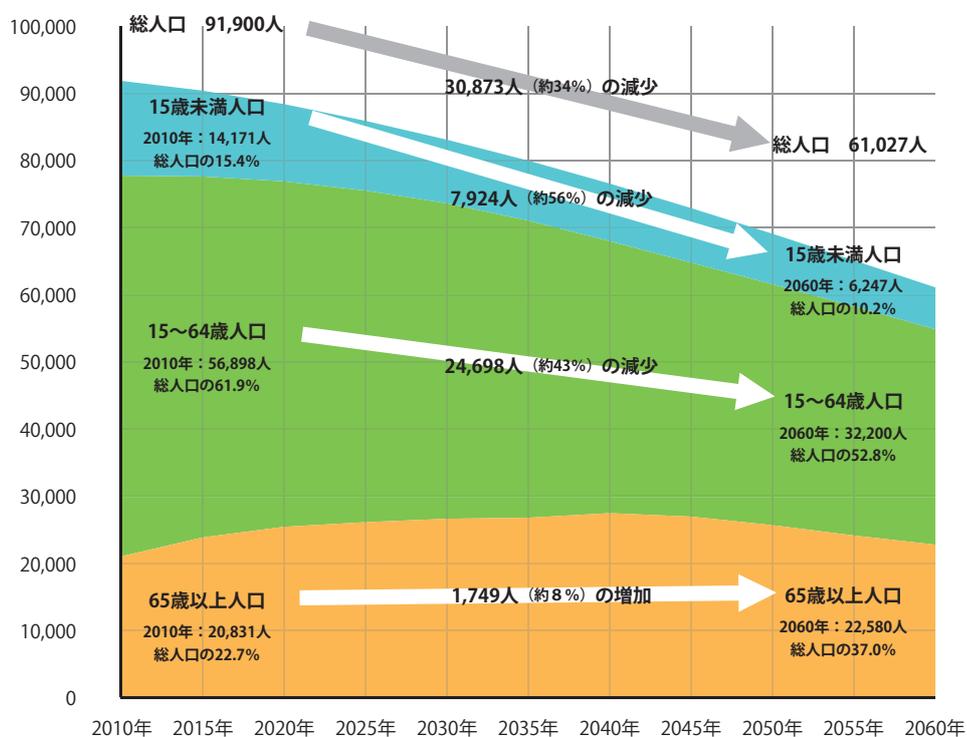
このように、人口減少による影響は多方面におよび、行政だけで克服できるものではありません。有効な対策を効果的・効率的に実行するためには、行政はもちろん、市民の皆様一人一人が人口減少・少子高齢化の現実に正面から向き合う必要があります。

笑顔と活力ある坂井市であり続けるために今私たちに出来ることをともに考えていくため、坂井市の人口の現状と将来の姿、目指す将来の人口規模についてお知らせします。

[坂井市の人口の長期的見通し（これまでの傾向による将来推計）]

今後、日本全体が長期的な人口減少期に入らる中で、坂井市の人口は、2060年（平成72年）には、61,027人と2010年（平成22年）の91,900人に対して約34%減少するとともに、少子高齢化が急激に進むと予測されます。

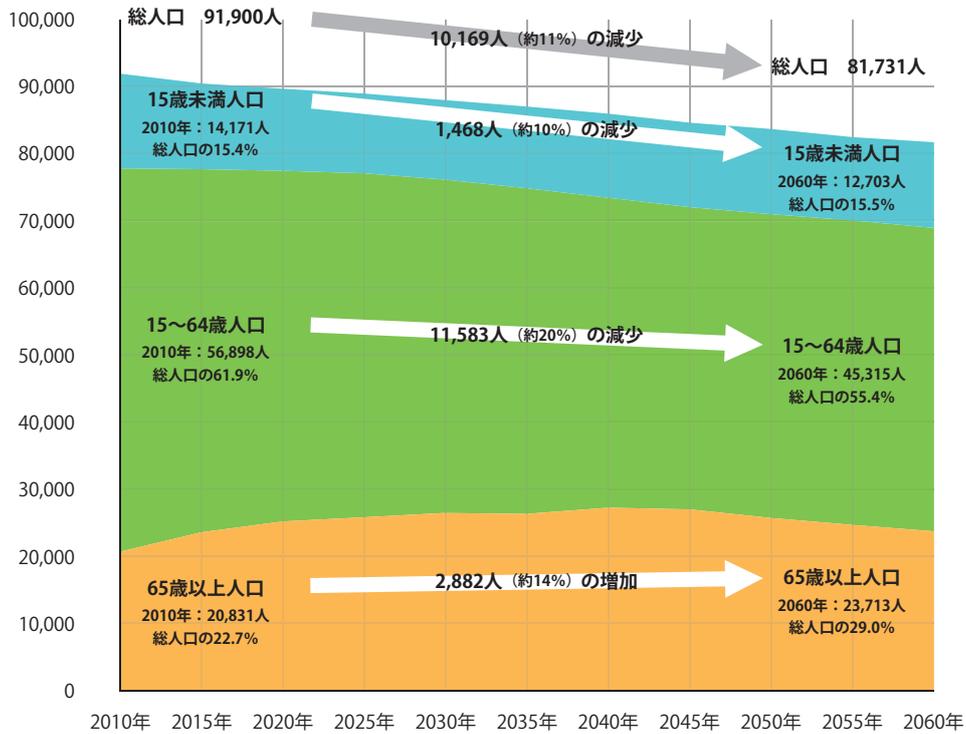
坂井市の人口の長期的見通し（これまでの傾向が続く場合）



[ 将来の目標とする坂井市の人口 ]

合計特殊出生率および転入・転出人口を押し上げることで、2060年の人口が82,000人となることを目指します。

坂井市の人口構造の長期的見通し（出生率と転入・転出人口の目標が達成される場合の推計）



※四捨五入の関係上、構成比の合計は100%にならない場合があります。

## ■坂井市まち・ひと・しごと創生総合戦略概要

坂井市には、彩り豊かな自然環境、歴史、伝統文化など、地域の個性や宝となる資源が豊富にあります。これらの地域資源を有効に活用しながら、人口減少に歯止めをかけ、「地方創生」に正面から取り組むとともに、地域の特性に即した対応や政策分野ごとの新たな取組みを展開していきます。



### ●都市基盤整備

人口減少、少子高齢化など、これからの社会に対応した都市計画に取り組みます。安全で安心なまちづくりや地域課題の解決に向け、行政と市民との協働によるまちづくりを進めます。

### ●移住・定住の促進

住みよさランキング上位の坂井市は、子育てや居住環境、医療水準が全国トップクラスです。これらの魅力を積極的に情報発信し、移住定住を進めます。



### ●女性の活躍推進

女性の子育て、介護や就労など、男性の理解や積極的な協力を促すとともに、障壁を除去し女性が輝く地域社会づくりを進めます。



## 目指すべき将来の人口規模を実現するための 5つの政策パッケージ

### ●少子化・高齢化対策

経済面や仕事との両立が困難などを理由に、結婚、出産をためらうことのないよう支援します。  
高齢者が活躍する機会や交流の場の充実など、いつまでも健康で暮らすことができる地域づくりを進めます。



### ●経済・観光の活性化

食料の生産、環境・景観の維持、防災などの多面的な機能を果たす農林水産業、基幹産業である製造業、商業やサービス業の振興を進めます。  
観光の利便性、満足度の向上、滞在時間の延長やリピーターの増につながるサービスの創出に取り組みます。

